

資料2 今年度事業の全体枠組みと 里地里山保全・活用検討会議

目 次

- 2-1. SATOYAMAイニシアティブの進展状況
 - 2-1-1. SATOYAMAイニシアティブの理念と視点
 - 2-1-2. SATOYAMAイニシアティブの進め方
- 2-2. 里地里山保全・活用に関する今年度事業の全体枠組み
- 2-3. 里地里山保全・活用会議の進め方について
 - 2-3-1. 検討会議の目的
 - 2-3-2. 行動計画の検討スケジュール

2-1. SATOYAMAイニシアティブの進展状況

2-1-1. SATOYAMAイニシアティブの理念と視点

- ・SATOYAMAイニシアティブを国際的に推進していくため、情報交換や取組の効果的な実施等の検討を行う国際枠組「SATOYAMA国際パートナーシップ(仮称)」をCOP10を契機に設立予定。
- ・その具体的なあり方の検討及び合意形成を図っていくための準備会合を開催。

SATOYAMAイニシアティブの理念と視点

3つの理念

人と自然の共生と循環に関する
智慧の結集

伝統知識と近代的知識の融合

新たな commons の創出

5つの視点

ランドスケープの特徴の理解と環境容量・自然復元力の評価

地域の伝統的知識と現代の科学知識の融合

生態系サービス最適化のための計画の策定

多様な主体による土地と自然資源の共同利用と管理参加

地域社会・経済への貢献

2-1. SATOYAMAイニシアティブの進展状況

2-1-2. SATOYAMAイニシアティブの進め方

◇第1回準備会合◇

2009年7月25日国連大学本部

・里山的ランドスケープの特徴を整理し、イニシアティブのデザイン(理念、持つべき視点)等を検討。

★主な成果★

- ・生物多様性の保全と人間の福利向上のための里山的ランドスケープ管理の重要性を認識。
- ・自然資源の持続的な管理だけではなく、発展途上国での食糧危機や燃料危機、貧困削減等を対象とし、人間の福利の向上を目的とするべき、との認識を共有。
- ・分野横断的な観点から、多様な主体との連携の重要性の認識を共有。

◇第2回準備会合◇

2009年10月1-3日マレーシア ペナン

・アジア地域の事例の共通点や相違点を整理しつつ、イニシアティブの枠組みの構築に貢献。

★主な成果★

- ・発展途上国における生物多様性保全や人間の福利向上を図る上で、気候変動への適応や食料・エネルギー安全保障、文化的側面からも、本イニシアティブの有効性の認識を共有。
- ・場所ごとの社会・経済的、地理的条件に適した手法の選択が必須であることを認識。
- ・関連する他の取組との相乗効果が得ることの重要性の認識を共有。

◇第3回準備会合◇

2010年1月29-30日フランス パリ

・世界各地域からの参加のもとに、国際的な枠組みによる展開方策について議論し、5月に開催予定のSBSTTAへの提言を取りまとめる。

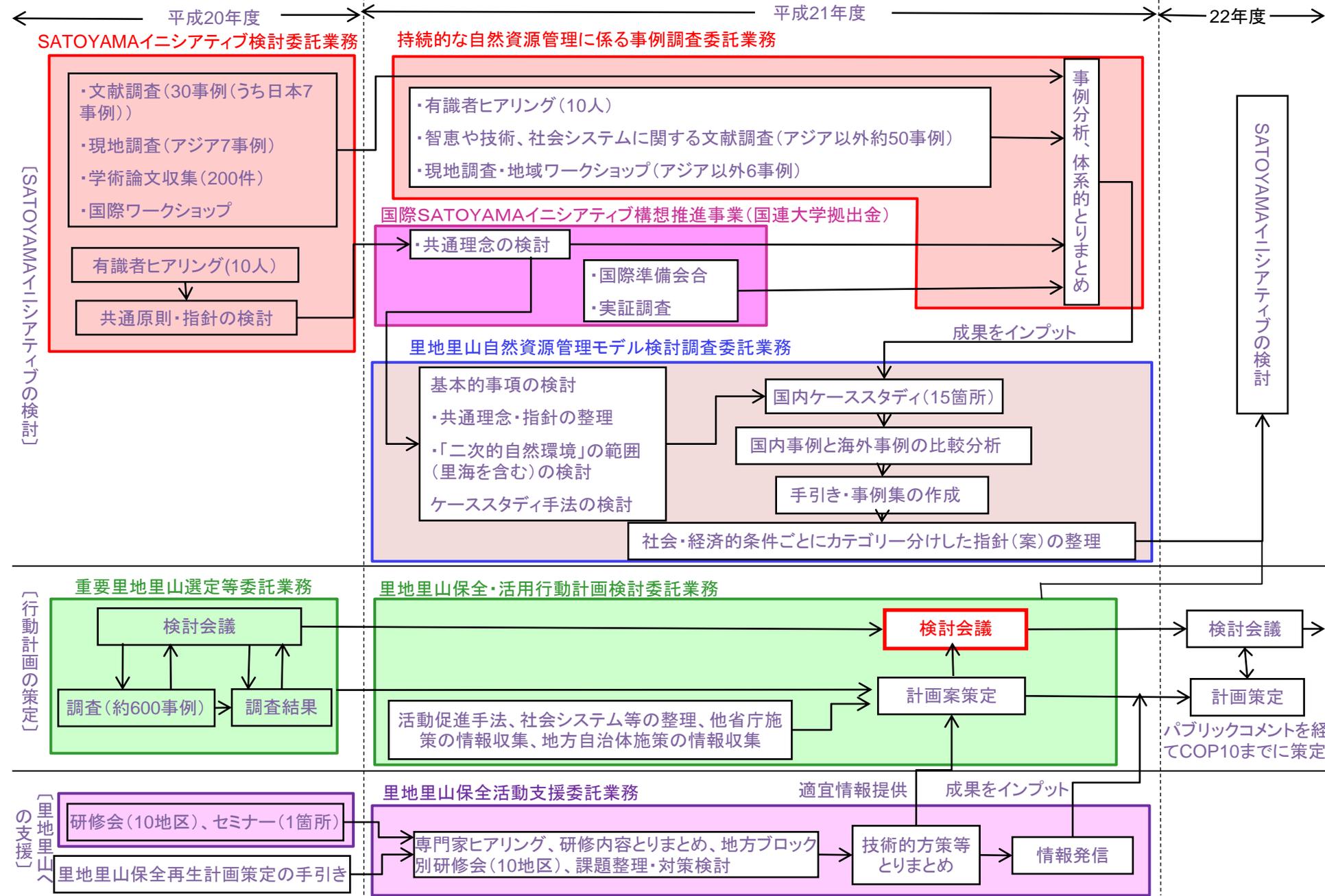
◇追加準備会合◇

◇CBDCOP10◇ 2010年10月愛知県名古屋市

SATOYAMAイニシアティブの提案

パートナーシップ(枠組み)の設立

2-2. 里地里山保全・活用に関する今年度事業の全体枠組み



2-3-1. 検討会議の目的

【位置づけ】

里地里山に造詣の深い有識者で構成し、国内の里地里山での自律的な保全・活用を促進し、人と自然の関係の再構築を図るために必要な検討を行うもの。

【役割】

- 生物多様性のほか、多様な観点から将来に引き継ぎたい里地里山の調査・支援。
- 里地里山の保全・再生の促進のため、生物多様性の視点に立った自然資源の管理・利活用方策の検討。
- 里地里山の自然資源の保全・活用を促進するため、自然資源の管理・活用方策、多様な主体の参加促進方策等からなる「里地里山保全・活用行動計画」の策定に関する検討。

【検討委員(五十音順、敬称略)】

あん・まくどなるど	国際連合大学高等研究所
	いしかわ・かなざわオペレーティングユニット所長
石井 実	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授
岩槻 邦男	兵庫県立人と自然の博物館長
進士 五十八	東京農業大学地域環境科学部教授
竹田 純一	里地ネットワーク事務局長
中越 信和	広島大学大学院国際協力研究科教授
広田 純一	岩手大学農学部教授
宮林 茂幸	東京農業大学地域環境科学部教授
森本 幸裕	京都大学大学院地球環境学堂教授
鷺谷 いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科教授



平成20年度第1回検討会議(2008.11.12)

2-3. 里地里山保全・活用会議の進め方について

2-3-2. 行動計画の検討スケジュール

